

人文科学研究所研究叢書

86. 『リアリティの哲学Ⅱ』

2026年3月20日発行

寺本 剛 編著 中央大学出版部発行

定価 4,300円（税別）

ISBN 978-4-8057-5368-2

目次	
まえがき	
神の未来 —サミュエル・アレクサンダーの強い創発概念について—	米田 翼
創発の限定解除へ —メイヤスーの〈無からの出現〉理論から破壊の形而上学へ—	飯盛 元章
創発における「無」の問題	入不二 基義
語の意味が一つに決まるとはどのようなことか —晩期ウィトゲンシュタインにおける「アスペクト」と「体制 Organisation」—	槇野 沙央理
純粹経験のリアリティ —ジェイムズ「意識」は存在するか 再読—	大厩 諒
実在の経験とギャップ	寺本 剛
「現実性」としての「リアリティ」 —レヴィナスによる顔の現象学的考察における他人と私のリアリティ—	高野 浩之
ティモシー・モートンの美学的因果 —「現われ」の読解術に向けて—	竹中 真也
複数の眼をもつということ —アーレントの遠近法主義—	齋藤 宜之
自然の存在学序論 —井筒俊彦に基づく—	小嶋 洋介
責任を呼びかけるリアリティ —和辻哲郎の人的現実と西田幾多郎の歴史的事実—	犬塚 悠
観光がつくるリアリティ —自然の資本化からツーリズムジェントリフィケーションへ—	紀平 知樹
XRツーリズム —倫理の観点からのサーベイ	神崎 宣次
『マトリックス』の世界はシミュレーションなのか —ファイン・チューリング論から考える—	青木 滋之